

- 「茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画」は「ちがさき都市マスタープラン」や「茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画」などの既定計画の方針に基づき都市の低炭素化に係る施策を体系化し、一体的に推進するための実行計画と位置付ける。
- 交通、建築物、みどりの3分野で、様々な取組を実施する計画。

■茅ヶ崎市低炭素まちづくりの基本的な考え方と将来像

歩きやすく、自転車が利用しやすい健康的なまちで暮らす！

◇生活関連施設が中心市街地や地区拠点に集まり、徒歩、自転車、公共交通でアクセスできる、歩いて暮らせる健康的なまちを目指す。

◇コミュニティバスによる公共交通の補完、次世代自動車の普及等による「環境負荷の少ない交通システム」を目指す。

<生活イメージ>

日常の買い物・通院の移動

➢ 徒歩・自転車・バス・小型EVで、自宅から診療所・商店へ移動



平日の通勤・通学の移動

➢ 徒歩・自転車・バスで最寄駅へ、最寄駅から鉄道で会社・学校へ移動



休日の買い物・食事・娯楽の移動

➢ 自転車・バスで拠点へ移動

➢ 拠点は、徒歩・自転車で周遊



➢ EV・ハイブリッド車で、拠点周辺の駐車場へ、駐車場から徒歩で拠点へ

➢ 自転車・バスで会社・学校へ移動



自動車は便利ですが、公共交通や自転車・徒歩は、環境・経済・健康面のメリットが大きい！

■計画期間

平成27年3月から概ね10年間とする。なお、平成30年の「ちがさき都市マスタープラン」の見直しの際に進捗確認を行う。

高機能で環境負荷が少ないまちで暮らす！

◇建築物の省エネルギーを推進し、太陽光等の新エネルギーが利用できる、エネルギー効率が高いまちづくりを進める。

◇住居系建築物における省エネ機器の導入、太陽光・太陽熱利用等の新エネルギーの利用拡大を目指す。

■省エネ住宅のイメージ



みどり豊かで外出したくなるまちで暮らす！

◇みどりを保全するとともに、みどりを創出することで、緑陰空間を確保し、移動しやすい快適なまちを目指す。

<生活イメージ>



中央公園の緑陰



みどり豊かな住宅地

■計画の目標

CO₂削減目標2050年度を目標年として将来趨勢比で運輸部門で1.8%削減、民生部門で1.7%削減とする。

■計画区域



計画区域は市街化区域全域（約2,221ha）とする。集約拠点地域は茅ヶ崎駅周辺地区、辻堂駅西口周辺地区、浜見平地区、香川駅周辺地区とする。